

物語をえがく

コレクション展

物語は、古くから絵に描かれ、楽しまれてきました。たとえば、最古の歌物語である伊勢物語の存在がはじめて文献上に知られるのは源氏物語のなかですが、それは絵巻のかたちで登場します。作中で行われた「絵合せ」というイベントでは、ほかにもさまざまな物語絵が競いあわされました。また源氏物語には、物語を音読させながら絵を眺めるといった鑑賞方法も記されており、やはり物語の楽しみが絵とともにあったことをうかがわせます。もちろん源氏物語も、成立後まもなく絵に描かれ始めたと考えられています。

物語絵は、中世まではもっぱら絵巻や冊子、色紙といった小画面に描かれました。絵巻ではストーリー展開や情景の移り変わりが横長の画面に巧みにあらわされ、色紙でも複数の画面をアルバムに仕立てる画帖が人気を集めました。やがて近世になると屏風にも描かれるようになり、物語が室内を彩りました。そうした屏風には、物語のダイジェストを大画面に散りばめるタイプがある一方、一場面のみを大きく印象的に描く作例もあります。

このたびの展覧会では、伊勢や源氏の王朝文学から平家物語、曾我物語、西行物語、そして酒吞童子をはじめとするお伽草子まで、さまざまな物語を描いた多彩な形式の絵画作品を集めます。晩秋のひとときを、物語と絵とともに過ごしてください。



2015年

11月14日(土)～12月23日(水・祝)

【休館日】月曜日、
ただし11/23(月・祝)は開館し、翌24(火)休館



Pictured Tales:

From Courtly Narratives to Medieval Short Stories



酒吞童子

げんじものがたり
源氏物語



げんじものがたりずびょうぶ すみよしぐけい
源氏物語図屏風 住吉具慶筆 6曲1双 紙本着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

右隻は「若菜上」巻に語られる源氏40歳の祝いの場面、左隻は「若菜下」巻で源氏が紫の上とともに住吉を詣でる場面を描く。柏木と女三宮の密通によって物語が暗転する直前の、源氏の幸せを華やかに描きだしている。

そがものがたり
曾我物語



そがものがたりずびょうぶ
曾我物語図屏風 6曲1双 紙本着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

曾我物語は、曾我十郎・五郎の兄弟による仇討ちを題材とした軍記物語の人気作。右隻は、源頼朝が行った富士山麓での狩に兄弟が紛れ込んだ場面を描く。

へいけものがたり
平家物語



へいけものがたりがじょう
平家物語画帖 3帖のうち(部分) 紙本着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

平家物語は、平家一門の栄枯盛衰をつづった物語。120面におよぶ小さな扇面に、多彩なエピソードが細密に描きだされている。

いせものがたり
伊勢物語



いせものがたりず いたやひろなが
伊勢物語図 板谷広長筆 2幅 絹本着色
日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵

伊勢物語の第4段、男がかつての恋人を思い一夜を明かす場面と、第51段、菊に絶えることのない恋心を詠う場面を描いた対幅。

かわずのそうし
蛙草紙



かわずのそうしえまき とさみつのぶ
蛙草紙絵巻 伝土佐光信筆 1巻(部分) 紙本着色 日本室町時代 16世紀 根津美術館蔵

貧しい男が長者の家の床下に閉じ込められていた蛙を助け、蛙の怨念のため病に伏していたその家の娘の婿になるというお伽草子の絵巻。

しゅてんどうじ
酒呑童子



しゅてんどうじえまき かのおきんらく
酒呑童子絵巻 伝狩野山楽筆 3巻のうち(部分) 紙本着色 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

都の娘たちを略奪する伊吹山の酒呑童子という鬼を、源頼光と渡辺綱ら6人が神々の化身の助けを借りて退治するというお伽草子の物語。金泥を多用した豪華な画面は、この絵巻が大名道具として制作されたことを暗示する。

同時開催

展示室5 せんめんかいがかん
扇面歌意画卷

「扇面歌意画卷」を中心に、本阿弥光悦や尾形宗謙(光琳の父)など、近世初期に活躍した人物が美しい料紙に和歌を書いた作品7点を展示します。



せんめんかいがかん
扇面歌意画卷 1巻(部分) 紙本墨書・着色 日本・江戸時代・17世紀 根津美術館蔵

散し書きした和歌とそれを図様化した扇面を組み合わせた100首・100図からなる。『伊勢物語』の和歌が3割を占めるのが特徴。



ひやくにんいっしゅう はちじょうのみやしひとしんのう
百人一首帖 八条宮智仁親王筆 1帖(部分) 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

極彩色に染め、金銀で装飾した豪華な料紙に書いた『百人一首』。筆者の智仁親王(1579～1629)は桂離宮を造ったことでも知られる。

展示室6 ろびら
炉開きの茶会

11月になると、茶室の炉に釜をかけて新茶を点て、茶の湯の一年が始まります。炉開きの茶会にふさわしい作品約20点の取合せ。



せめひもかま てんみょう
責紐釜 1口 天明 鉄
日本・室町～桃山時代 16世紀 根津美術館蔵

責紐釜は、釜を持ち上げるための鑿を通す孔(鑿付)が釜の口元にあるのが特徴で、貴人への献茶の際、釜の蓋を紐で封印しておくためと伝わる。



まるつぼちやいれ あおやま
丸壺茶入 銘 青山 1口 福州窯系
中国・南宋～元時代 13-14世紀 根津美術館蔵

丸い胴に長い頸がついた茶入は丸壺と称される。この作品は、青山播磨守が徳川二代將軍・秀忠より拝領したため、青山の銘がついた。

関連プログラム

- 講演会 「源氏絵の系譜 —平安時代の絵巻から江戸時代の屏風、画帖、絵巻まで—」
日時 11月21日(土) 午後2時～3時30分
講師 稲本万里子氏 (恵泉女学園大学教授)
会場 根津美術館講堂 (定員 130名)
- (申込方法) 往復葉書の往信裏に、展覧会名・住所・氏名(返信表面にも)・電話番号をご記入うえ、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館 講演会係宛にお申込みください。
*11月7日(土)締切(当日消印有効)。
*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復はがきでお申込みください。
- スライドレクチャー
日時 11月20日(金)、11月25日(水)、12月11日(金) 「物語をえがく」
午後1時30分から約45分間
講師 野口 剛 (根津美術館 学芸第2課長)
- 日時 12月 4日(金) 「扇面絵意画卷」
午後1時30分から約45分間
講師 松原 茂 (根津美術館 学芸部長)
- *いずれも会場は根津美術館講堂(先着 130名)。学芸員がスライドを用いて説明いたします。
- ※講演会、スライドレクチャーとも聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

開催概要

- 【展覧会名】 コレクション展「物語をえがく —王朝文学からお伽草子まで—」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2015年11月14日(土)～12月23日(水・祝)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし11/23(月・祝)は開館し、翌24(火)は休館。
- 【入館料】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
- 2015年9月19日(土)～11月3日(火・祝)「根津青山の至宝 —初代根津嘉一郎コレクションの軌跡—」展
開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
- 【専用アプリ】 *携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



染付色絵松竹梅文皿 肥前 鍋島藩窯
日本・江戸時代 17世紀 山本正之氏寄贈 根津美術館蔵

松竹梅 —新年を寿ぐ吉祥のデザイン—

2016年 1月9日(土)～2月14日(日)

松・竹・梅を主題とした絵画やそれらのモチーフをあしらったやきもので新春を祝います。

【リリース・広報のお問合せ】

担当: 所、村岡、羽田 TEL.03-3400-2538 (直) FAX.03-3400-2436 MAIL.press@nezu-muse.or.jp